

わだつみのかみのむすめ
海神之女、

みてあい はからんぞ
見相議者也、

※『古事記』本文より



國學院大學 神道文化学部



オープンキャンパス

5月15日^日、7月29日^金・30日^土、8月27日^土・28日^日、9月25日^日、10月30日^日

観月祭

KANGETSUSAI



高校の総合学習で 神社に興味を抱いたのが 入学のきっかけでした



久我 洸輔さん

神道文化学部4年（フレックスA・夜間主）



高校のころ、総合学習で「神社」の研究発表をしました。それまで神社とは縁もゆかりもなかったのですが、これをきっかけに、神社に格別の興味を抱くようになりました。



入学の年から、本学恒例の観月祭に参加してきました。4年次の観月祭。ついに念願の舞人として舞台に立つことが叶いました。仲間たちと共に、伝統の「左舞」を力いっぱい舞わせていただきました。私の生涯の思い出です。



経済的には本学の「フレックス特別給付奨学金」（夜間主学生対象）が学修の支えになりました。本学の行き届いた支援に心から感謝しています。（「フレックス特別給付奨学金」については裏面参照）



おかげさまで、中部地方の由緒ある神社への奉職が内定しました。奉職後は、神明奉仕に微力を尽くしたいものと願っています。

※学年は全て取材時のものです





祭式を学び、雅楽を学び、 衣紋を学んでいます



川元 日菜子さん

神道文化学部2年（フレックスB・昼間主）



私は、高校の頃から、日本の王朝文化に憧れを抱くようになりました。王朝文化の母胎は、わが国古来の神道文化です。大学進学に際しては、考え抜いた末に、神道文化学部を選びました。



本学恒例の成人加冠式に、新成人代表として参列させて頂きました。先生方や学部仲間たちに支えられ、答辞奉読の大役を果たすことができました。単なるイベントではない「人生儀礼」としての成人の「真の節目」を迎える事が出来たと思っています。



神道文化学部に入學以来、神道を学び、祭式を学び、雅楽を学び、衣紋を学んできました。今までとは全く違う世界に入り、知識だけではなく、「精神」までもしっかりと学ぶ事が出来ました。



これからも神道の学びを深め、稔豊かな人生を切り開いていきたいものと願っています。



成人加冠式

SEIJINKAKANSHIKI

授業と演習



授業
TEACHING

学生による『古事記』の神語り



授業で『古事記』を 感じよう！



吉田 光臣さん

神道文化学部4年（フレックスB・昼間主）



神道文化学部に入學して受けた最初の授業が、武田秀章教授の『古典講読Ⅰ』です。それは私にとって一つの衝撃でした。



大学に入學するまで、古典の学習というのは、文法や単語の訳を覚えるような退屈なものだと思っていました。しかし、この授業を受けたその日から、私の古典に対するイメージが一変しました。先生の生き生きとした語りを聞くうち、私は『古事記』の底知れぬ世界に、身も心も引き込まれていったのです。



神道を学ぶ上で、『古事記』を避けて通ることはできません。その大切な『古事記』を、誰にでもわかりやすく、親しみやすく“感じる”ことが出来るのが、この『古典講読Ⅰ』の授業です。



先般、おかげさまで神社への奉職が内定しました。これからは、学部での学びを活かし、『古事記』の面白さを、少しでも多くの方々に伝えられるよう努力していきたいと思っています。



ゼミは楽しい！



戸内 結律子さん

神道文化学部3年（フレックスB・昼間主）



神道文化学部の学生は、3・4年次、専門のゼミ（基幹演習科目）に入って、少人数で切磋琢磨します。私は藤本頼生准教授のゼミで「御朱印ブーム」の実態について調べています。



人々が神社に足を運ぶきっかけとして、「御朱印」は大切な役割を果たすようになりました。「御朱印」が結ぶ神社と参拝者の絆について、また「御朱印」を求める現代人の社会心理について、自分なりに考えを巡らしていきたいと思っています。



藤本ゼミには、私のように「現代の神社」を巡るトピックに関心を寄せる学生が集まっています。藤本先生は、一人一人の発表にとっても親身な助言をしてくださり、私たち学生のことをとても考えてくださっていることが伝わってきます。ゼミの仲間の発表を聞くことも、とても勉強になります。



藤本准教授ゼミ



就職内定者のメッセージ



観月祭で舞う宮内さん

入学当初から一般企業への 就職を目指しました



宮内 里菜さん

神道文化学部4年（フレックスB・昼間主）
日東工器 内定



4年生になっていよいよ就職活動本番。就職活動に際しては自己アピールを準備します。私の自己アピールのポイントは、以下のよう
なものでした。

- ・「大学恒例の「観月祭」で舞姫を務めました」——面接では、先生方に撮影していただいた観月祭の画像をお示しして説明させていただきました。
- ・「黒崎浩行教授のゼミで神社の社会貢献を研究しました」——神社が社会貢献をしているということ自体を、驚きをもって受け止めていただきました。
- ・「入学アドバイザーとして大学広報誌「K：DNA」の編集に従事しました」——これも実物をお示しして説明しました。



おかげさまでその業界トップシェアを誇る「ものづくり」の企業から内定をいただくことができたのです。



思えば、先生方、職員の方々の行き届いたサポートを得て、本当に充実した学生生活を過ごさせていただきました。そのことが、まっすぐ就職内定に繋がっていったと思います。神道文化学部で学べて、本当によかったと思っています。





神道の学び・神社での 経験を活かして、 進路を切り開きました



浅野 遵さん

神道文化学部4年（フレックスB・昼間主4年）
東急建設 内定



振り返ってみると、神道文化学部での貴重な経験のすべてが、就職活動の際の強力な「武器」となったと感じています。



私の実家は神社ではありませんでしたが、入学後、神職課程を履修しました。履修の傍ら、数多くの神社で助勤を務めました。とりわけ、富士山頂・富士浅間神社奥宮のご奉仕は忘れ難い経験です。ご来光を仰いだ時の感動は、到底言葉に尽くせません。



神道文化学部の学生は、「祭り」の実修を通して礼節とまごころを磨き、きびきびした立居振舞を身に付けています。神社の助勤では、年長の神職のみならず、御祈願に来られる老若男女すべての方に、礼節正しく、まごころを籠めて対応する経験を重ねています。



こうした点が「普通の大学生」と一味違うところで、わが学部出身者のアドバンテージと言ってよいのではないのでしょうか。そう考えると、神道文化学部生は、企業から充分に「求められる人材」たり得るのではないかと思います。



建設業ほど神祭りを大切にする業界はありません。そういった面でも、今までの学びを活かせるのではないかと考えています。神道文化学部出身者として、ぜひとも自分なりの貢献をしていきたいものと願っています。



アイスブレイク



入学時「アイスブレイク」とは？

—神道文化学部の新入生「友達作り」作戦—



中村 花野さん

神道文化学部2年生（フレックスB・昼間主）



地方から上京する皆さんの不安は、「友達ができるのか？」ということではないでしょうか。でも心配は無用。神道文化学部では、入学当初に「アイスブレイク」という「友達作り」の行事が2回にわたって行われています。



あの広大な「明治神宮の森」を舞台として、共同のワークやクイズラリー、境内での散策などを通して、初顔合わせの学友たちと「友達の絆」を結び合わせることができます。地方出身の私も、「アイスブレイク」への参加によって、たくさんの友達を作ることができました。



神道文化学部では、家が神社という人だけではなく、私のように一般家庭の出身者も数多く学んでいます。そこには何の分け隔てもありません。仲間との交流を楽しみながら、充実した学生生活を満喫しています。



高校2年生の夏休み、國學院大學のオープンキャンパスを訪れました。そこではじめて、神道文化学部の存在を知ったのです。「自分の学びたいことが、この学部にあるかもしれない…」そう思った私は、神道文化学部の受験を真剣に考えるようになったのです。



志願者の皆さん、神道文化学部と一緒に人生の目標を見つけましょう！



学部長メッセージ



武田秀章学部長

神道文化学部は、國學院大學の「建学の精神」を体し、世界に心を開いた「日本人らしい日本人」を育むことを目指しています。

国学者の本居宣長は、師の賀茂真淵と出会い、ライフワーク『古事記』研究に目覚めました。その一度限りの出会いが、江戸時代における国学の興隆に繋がり、やがて国学を校名に冠する本学の建学に繋がっていきました。神道文化学部が、皆さんの大切な「出会いの場」となることを心から願っています。

神道文化学部のウェブサイトでは学部の最新情報を毎週お伝えしています。学生諸君の生き生きとした学びの姿をご覧ください。



夜間主(フレックスA)学生対象

返済不要

フレックス特別給付奨学金

後期分授業料・施設設備費相当額支給
(応募者全員採用実績あり)

対象：夜間の時間帯（月～金曜日の5～7時限および土曜日1～7時限）の科目のみで授業を履修するフレックスAコースの在学学生（年度ごとに申請が必要） 支給額：400,000円